

## 和服を扱う授業の進め方に関する提案

○正地里江 植竹桃子 (東京家政学院短大)

【目的】現代の女子学生に接していると、「和服に興味はあるがなかなか踏み込めず、まして縫うとなるとしりごみしてしまう」という傾向が感じられる。そこで、和服をより受け入れやすい授業のあり方について、質問紙調査を行って検討する。

【方法】①対象：東京都内のA女子短大生およびB女子短大生、計155名（うち98%は家政系） ②調査項目：和服に対する意欲7項目（好き嫌い感、縫うことに対する意欲、着ることに対する意欲）、およびこれへの関連性が予測される33項目（適性、難易感、知識、経験、環境、生活態度）の、計40項目 ③調査方法：集団調査法 ④調査時期：平成11年10月～11月 ⑤分析方法：基本統計量の算出、クロス集計

【結果】①多くの学生は「好き」「着たい」と思い、「いつかは縫いたい」と思う傾向も認められるが、経験はあまりなく、むずかしいという印象をもっている。概して、『縫う』より『着る』に対する意欲や自信の方が強い。②「好き」と「縫いたい」「着たい」とは関連している。また、「ゆかたや振袖以外でも着たい」と「縫いたい」とは関連する。③「縫いたい」は、難易感、経験、環境、生活態度とはほとんど関連が認められない。「着たい」は、適性、生活態度とは関連が認められない。④授業の進め方として、学生がもつ既存の難易感、経験、環境等にとらわれずに『着る』で和服になじんだ上で、更に『縫う』あるいは『理解する』に進めていくことの効果が期待できると考える。